

仙北市中央公民館「夏の防災体験教室」実施レポート

日 時：令和7年7月5日（土）9時45分～12時10分

会 場：仙北市西木総合開発センター集会室・北側駐車場

参加者：大曲支援学校せんぼく校卒業生、在校生、保護者、在校生兄弟

指定障がい福祉サービス事業所「愛仙」利用者、保護者、利用者兄弟 計80名



【開講式：教育長挨拶】

仙北市教育委員会生涯学習課および仙北市中央公民館の主催、ならびに大曲支援学校せんぼく校同窓会（せんぼく桜スクール）との共催により、「夏の防災体験教室」が開催されました。『過去の災害を教訓に、日頃の備えや被災時の対応を学ぶとともに、各体験を通じて地域のつながりづくりを推進すること』を目的としています。本防災体験教室は、令和7年5月に開催された「春のスポーツ体験教室」に続く、2回目の開催となりました。当日はあいにくの天候ではありましたが、多くの参加者に来場され、盛況のうちに終了しました。

【協力】 ・仙北市地域婦人団体連絡協議会 ・角館消防署西木分署予防課 ・仙北市総合防災課（仙北市消防団）
・仙北市西木市民センター ・指定障がい福祉サービス事業所「愛仙」 ・防災グッズ関連企業

【防災講座】講話・ワークショップ



（写真①）

当センターの副主幹（兼）学習事業チームリーダーの**柏木 睦**が、『役立つ防災スキルを体験しよう』をテーマに講話を行いました。はじめに、非常口の標識に関するクイズを出題しました。（写真①）参加者の多くは回答に迷う様子が見られましたが、楽しみながらクイズに参加している様子がうかがえました。正解を発表した後、見たことがあっても、意識していないと見えていないこと、見るためには体験や経験が必要なことを指摘しました。続いて、被災地における給水状況や避難所での場所取りの様子を撮影した写真を提示しながら、災害時の現状について確認しました。そして、災害時には冷静に行動できることの重要性について解説しました。特に、防災に関する事柄について一度も体験したことがない場合と、実際に体験したことがある場合とでは、対応能力に大きな差が生じることを強調しました。



（写真②）



（写真③）

講話に続き、学習事業チームによるワークショップを行いました。内容としては、百円均一で揃えた防災グッズの紹介や、新聞紙を使ったスリッパづくり（写真②）と箱づくり、さらにテントや段ボールベッド（写真③）、コット（簡易ベッド）の設営および撤収体験など、多岐にわたる防災体験を行いました。参加者は、各ブースを順番に巡りながら、主体的かつ楽しみながら学習に取り組まれていました。

また、会場では同時進行で、日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部の及川真一氏による『動画で学ぶ防災』をスクリーンに投影し、参加者の皆様にご覧いただきました。

【災害体験】



【非常時の食事と炊き出し】



【地震体験車】

【閉講式】

閉校式において、当センターの**佐々木 克巳**が、参加者が積極的に本防災体験教室に参加し、防災についての興味・関心や意識の高まりを感じるとともに、実際に「楽しくやってみる」ことで、防災知識や行動が身に付くという“楽しさと学びの両立”について話し講評としました。